

2026「ことばの森教室」第1回優秀作品紹介

<小学校5年生>

作文課題「お手伝いしたり働いたりして、感じたことや考えたこと」

5-① 「お風呂そうじをしてわかったこと」

ぼくは、休日にお風呂そうじのお手伝いをしました。最初はめんどうだなと思いましたが、お父さんに「けっこう大切な仕事だぞ。」と言われたので、やってみることにしました。

お風呂の床やかべをスポンジでこすると、思ったよりよごれがたくさんありました。特にすみの方は黒ずんでいて、力を入れてこすらないと落ちませんでした。そうじが終わるころには、汗をかいていました。でも、よごれが落ちてピカピカになると、ゲームでステージをクリアした時みたいに気持ちがよかったです。

ぼくは、今まで家のそうじは、かんたんだと思っていました。でも実際にやってみると、時間も体も力も必要だと分かりました。これからは、家族にまかせるだけでなく、自分から進んで手伝いたいと思いました。

5-② 「手伝いの大切さ」

私はふだん、あまり手伝いをしない方だ。でも、1週間の放課後の留守番をきっかけに、私は手伝いの大切さを知った。

5月17日からの1週間、祖父母が旅行に出かけたので、いつも放課後を祖父母の家ですごしている私と弟は、2人で留守番をすることになった。この留守番で一番大変だったことは、弟がほとんど何もしてくれないということだ。おやつを用意も宿題の見直しもすべて私がやらないといけなくて、これを毎日してくれている祖父母がどんなに大変か、初めてわかった。そして、そのことを当たり前だと思わずに、しっかり感しやしようと思った。

この経験を生かし、私は今、草取りにはげんでいる。庭がだんだんときれいになっていくのを見ると、何だかうれしくなる。だからみなさんも、たまには何かお父さんやお母さんを手伝ってあげてはどうだろうか。

5-③ 「家族の一員として」

ぼくは、家でいろいろなお手伝いをしています。その中で、最近始めたのが「布団たたみ」です。

自分でやってみるまでは、ただ布団をたたむだけだから簡単だと思っていました。しかし実際にやってみると、布団は想像以上に重く、しいたりたたんだりするだけで手が痛くなってしまうほど大変でした。

いつもこの大変な作業をしてくれていたのが、おじいちゃんでした。お手伝いをしたことで、おじいちゃんの優しさを感じ、とても温かい気持ちになりました。

また、お手伝いをしていると、家がいつも整っているのは、だれかががんばっているからだということにも気づきます。そして、自分で布団をたたむと朝からとても心がすっきりします。

これからも家族の一員として、当たり前の生活ができていることに感しやの気持ちを忘れず、お手伝いを続けていきたいです。

5-④ 「ぎょうざ作りを通して感じたこと」

小学3年生のころから、ぎょうざ作りを手伝っている。最近、4月にお母さんとぎょうざを作った。家族全員がぎょうざが好きで、よく家で作るからだ。

前まで、ぎょうざを包む道具を使って包んでいたが、今は道具なしで自分で包めるようになっていた。お母さんのようにヒダをつけて上手に包めないの、ぼくは皮を折りたたんで四角いぎょうざを作った。すると、お母さんは目を丸くしておどろいた。「すごいね、どうやって包んだの。」ぼくはとてもうれしくなって、「まあね」と返事をした。ぼくが包んだ四角いぎょうざは、家族みんながおいしいと言ってくれた。ぎょうざを約25個包んで、意外に大変だったが楽しかった。

お母さんは、いつもご飯を作ってくれるので、手伝いをしてその苦労がわかった。みんなが喜んでくれるので、これからもぎょうざを作りたい。

5-⑤ 「お手伝いの大変さ」

お手伝いは苦手だ。なぜなら、自分のやりたい時にできるわけではないし、時間がかかるものもあるからだ。

たとえば、遊んでいる時などに、「手伝いで」と言われてしまうと、お手伝いをする気がなくなってしまう。お手伝いはしたいけれど、タイミングが悪いとできなくなってしまう。だから、いつも、家のいろいろな家事をしているお母さんは、本当にすごいと思う。私みたいに、タイミングでやらなくなってしまうのではなくて、私が遊んでいる間もずっと家事をしてくれている。そんなお母さんには、とても感しゃしているから、私も何か一つはお手伝いをしっかりやりたい。でも、急には無理だから、始めはよばれたらなるべく早くお手伝いをしにいくようにしたい。

そして、お母さんみたいに、いつかいろいろな家事を完ぺきにこなせるようになりたい。

5-⑥ 「畑のお手伝い」

ぼくのおじいちゃんは、畑で野菜を作っています。畑で野菜を作るためには、こう運機で畑をたがやして土をやわらかくします。その後に、野菜をうえます。おじいちゃんが畑でこう運機を使っているところを見て、「面白そう!」と思いました。ぼくが「やりたい!」とおじいちゃんに言ったら、「いいよー!」と言って、機械の使い方を教えてくれました。まず、進み方と止まり方を教えてもらいました。次に、バックの仕方教えてもらい、畑をたがやしました。草が機械にからまったので、おじいちゃんに聞いたら、エンジンを止めてから草を取ることを教えてもらい、最後にエンジンのかけ方を教えてもらいました。

ぼくは、こう運機で畑をたがやすのが面白くて楽しかったです。ぼくは、おじいちゃんが畑でこう運機を使う時に、一緒に軽トラックにこう運機を積んで、畑に行ってたがやしたいです。おいしい野菜を育てたいです。

5-⑦ 「当たり前の大変さ」

ぼくは、お父さんと車を洗いました。その時、「車を洗うことはとても大変なんだなあ」と思いました。なぜこんなに大変なのか、とても不思議に思いました。そこで、少し考えてみました。車全体をふくから、ごしごし洗うから、考えてみたけれど分かりませんでした。

そのまま車を洗い続けていたら、何だか色々なことが思いうかんできて、楽しくなってきました。大変な理由も分かってきました。一人でやっていると、しゃべる相手もなく、楽しくそうじができないから大変なんじゃないかと、ぼくは考えました。そうじが終わったらお父さんが、「手伝ってくれてありがとう」と言ってくれました。やっぱり一人だとそうじは楽しくないんじゃないかと、どんどん思いこんでしまいました。

だけれど、そうじをすることが大変なのは、初めてやったからだと気づきました。お父さん、お母さんは大変なことを当たり前に行っていてすごいと思いました。毎日、ありがとう。

5-⑧ 「田植えのお手伝いを通して」

私は、お手伝いとして田植えをしました。田植えでは、なえをまっすぐ植えるのが、思っていたよりもむずかしくて、何回

も曲がってしまいました。おじいちゃんたちは、かんたんそうに植えていたけど、実際にやってみるととても大変でした。

このお手伝いをして、お米が食べられるようになるまでには、とても時間がかかり、たくさんの人の手伝いと努力が必要だと分かりました。田植えが終わった後も、お世話を続けたいいけないので、お米作りは本当に大変なんだと感じました。そして、いつもおいしいお米を食べることができるのは、いつも田んぼの仕事をしているおじいちゃんやおばあちゃんのおかげなので、感しゃしたいと思いました。

また、お手伝いはだれかのためだけにするものではなく、自分のためにもなると思いました。私は田植えを通して、働くことの大切さを学ぶことができました。

5-⑨ 「家事のたいへんさ」

私がお手伝いをして感じたことは、親が大変なのにながら頑張ってくれているということです。皿洗いやせんたくなど、色々なことをしてくれて、感謝の気持ちになりました。

親がやっていたことをやると、むずかしかったけど、親の気持ちが分かった気がしました。一番お手伝いで大変だったことは、せんたく物をほすことです。身長があまりとどかなかったけど、台を使って何とかとどくことができました。親にせんたく物をほしたことでほめられて、うれしかったです。ほかにも、皿洗いをしたりそうじ機をかけて、たくさんほめられてうれしかったです。次は、料理で家庭科で習ったこふきいもや青菜のおひたしなどを作り、夕食に出して食べてもらいたいです。

これからは、家族がこまっていたらすぐに助け、家族の役に立ちたいです。料理もうまくなって、家族みんなにほめられたいです。これからの生活で生かしたいです。

<小学校6年生> 作文課題「私の好きな言葉」

6-① 「人生に必要な言葉」

「ケセラセラ」これは楽になれる魔法の言葉です。ケセラセラとは「なるようになる」という意味のスペイン語の言葉です。「ケセラセラ」という言葉を作った人は、アメリカの作詞家レイ・エバンズさんと、作曲家ジェイ・リビングストンさんです。

ケセラセラを知ったきっかけは、ミスグリーンアップルさんが日本レコード大賞を受賞した時に知りました。初めて聞いた時には、呪文のような言葉でしたが、意味を調べるととても良い言葉で、心に刺さりました。それから私はバドミントンの試合の時に、ケセラセラと自分に言い聞かせるようにしています。そうすると、緊張がやわらいでいくからです。

このように「ケセラセラ」とは、私にとって気持ちが楽になる魔法の言葉です。これからも緊張する時や辛い時には、ケセラセラと自分に言い聞かせて、楽しく人生を歩んでいきたいです。

6-② 「挑戦しないと、一生の後悔」

「やらないで後悔より、やって後悔」これは魔法の言葉だ。私を大きく変えて、何度も私を助けてくれた。そして、これから先もお世話になるだろう。

2年生の時、私はまだ「挑戦」ができなかった。他の人に言われるのは嫌だけど、間違えたら笑われるんじゃないか、そう思っていた。ジイジに話したら、「今でもあの時間けば、やればって、一生後悔していることがたくさんある」らしい。その時、私はジイジから魔法の言葉を教わった。「やらないで後悔より、やって後悔。今やらなければ、一生引きずるけど、やれば一瞬の後悔で済む。」その言葉を、私は心にしっかりと刻んだ。それからは、授業でもいっぱい発言したり、大縄で一番に跳んだり、挑戦を重ねてきた。

この言葉があったから、今の私がいる。「初めて」は「チャンス」だと思って、挑戦することが私の決まりだ。人を変え

るこの魔法の言葉を、もっと広げていきたい。この世界へ。

6-③

「なんとかなるでしょ」

「なんとかなる」これが私の好きな言葉だ。修学旅行の班別散策の前、私はとても不安だった。班で決めた場所へ、時間通りにいけるか、道に迷わないかなど、心配なことがたくさんあったからだ。実際に班別散策が始まって、順調にいった時、予想していないことが起きた。電車に乗る時、私達は乗る電車を間違えそうになったのだ。その時は焦ったけれど、班で考えて、先生に教えてもらった。そのおかげで、無事に正しい電車に乗ることができた。

私はこの出来事から、始まる前に心配しすぎても意味がないことに気づいた。困ったことが起きても、一人で抱え込まず、周りとの協力すれば解決できることが多い。もちろん準備することは大切だけれど、意外と「なんとかなる」ものだった。

これからも新しいことに挑戦する時は、「なんとかなる」という言葉を思い出して、前向きな気持ちで行動していきたい。